

# 2019年度 卒業時アンケート集計結果

## 家政学部(通信教育課程)

「卒業時アンケート」実施に際し、各学科のご協力をたまり、誠にありがとうございました。集計結果をご報告いたします。

このアンケートでは、卒業予定者を対象に、大学、学部、学科、それぞれの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)について、「身についたと思いますか」という意識調査をしております。同時に、「日本女子大学で学んで良かったと思いますか?」、「学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか?」という質問をいたしました。

なお、大学、学部、学科のディプロマ・ポリシーにつきましては、その回答の平均値を経年比較しております。文言の変更がある項目については、内容の似ているものはそのまま比較を行っておりますが、新規のDPIについては、比較から外している項目もあります。また、内容に変更・結合・分離等がある項目のうち、比較が可能と判断した項目については、注釈を付して集計いたしました。自由記述箇所につきましては、学生の記載原文を記載しております。(注:2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」を選択肢としていました。)

本件につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、大学改革推進室までお願いいたします。

※集計結果は通信教育課程ホームページに掲載します。

### 目次

1. 家政学部 通信教育課程	2
2. 家政学部 通信教育課程 児童学科	4
3. 家政学部 通信教育課程 食物学科	6
4. 家政学部 通信教育課程 生活芸術学科	8

### <2019年度回答率>

2020年3月20日

学部	学科	卒業生数 (9月卒業及び3月卒業)	回答数	回答率
家政学部 通信教育課程	児童学科	53	23	43.4%
	食物学科	24	14	58.3%
	生活芸術学科	11	3	27.3%
合計		88	40	45.5%

(参考)

通学課程	2019年5月1日 4年次在籍者数	回答数	回答率
家政学部	477	424	88.9%
文学部	425	342	80.5%
人間社会学部	533	414	77.7%
理学部	187	158	84.5%
通学課程 合計	1,622	1,338	82.5%

# 1. 家政学部 通信教育課程

(回収率: 45.5%)

＜身についたと思いますか＞

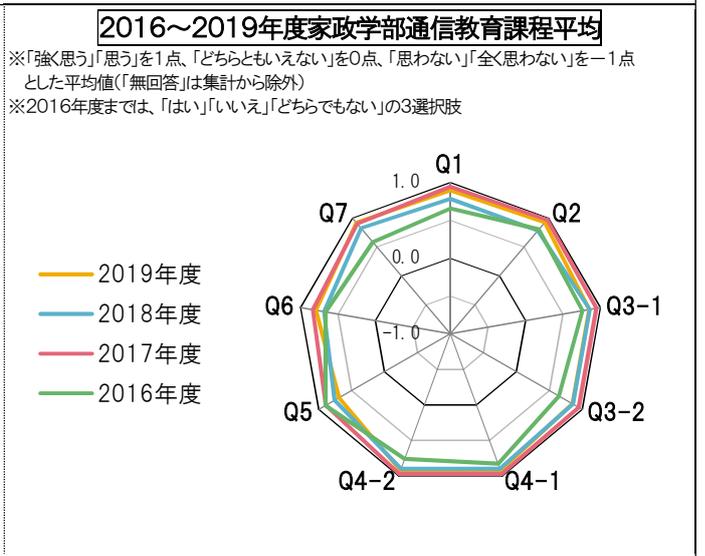
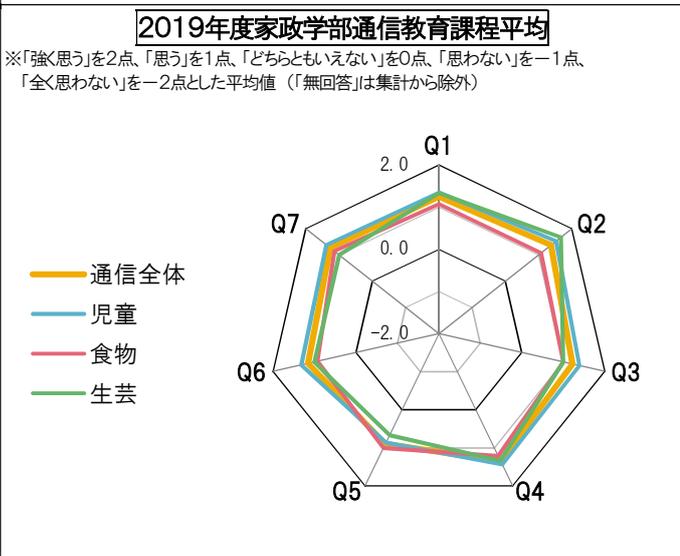
◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)		(人)							
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。	2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7
		強く思う	14	18	15	17	8	14	13
		思う	22	19	20	20	21	18	22
		どちらともいえない	4	3	4	3	8	6	3
		思わない	0	0	1	0	2	1	0
		全く思わない	0	0	0	0	0	0	0
		無回答	0	0	0	0	1	1	2

◆ 家政学部通信教育課程の学位授与方針(DP)								
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。							
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。							
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。							

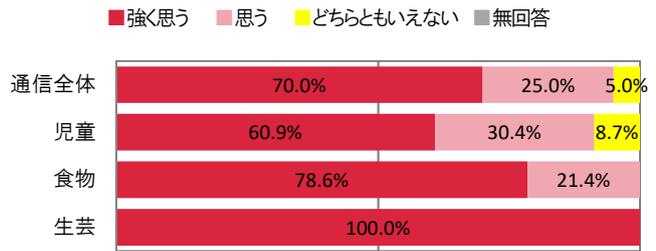
■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない  
■ 思わない ■ 無回答



グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。	Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。	Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3-1	専門的知識と教養教育をバランスよく学び、豊かな知性と感性を身につける。	Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q3-2	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。	Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
Q4-1	他者に対する共感の気持ちをもつことができる。	Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q4-2	まわりの人びとと円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。	Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。	Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識をもって社会に貢献することができる。		
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、解決していくことができる。		

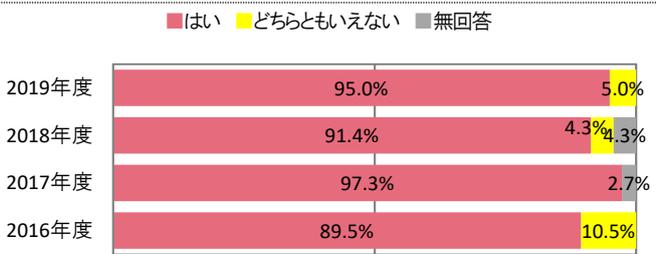
◇日本女子大学で学んで良かったと思いますか？（2013年度から調査している項目）

2019年度	通信全体	児童	食物	生芸
強く思う	28	14	11	3
思う	10	7	3	0
どちらともいえない	2	2	0	0
思わない	0	0	0	0
全く思わない	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0



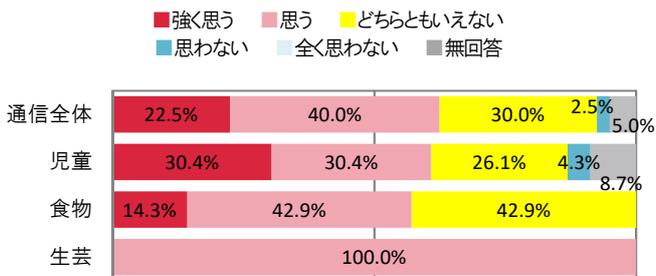
通信全体	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	
はい	強く思う	28	41	54	68
	思う	10	23	19	0
どちらともいえない	どちらともいえない	2	3	0	8
	思わない	0	0	0	0
いいえ	全く思わない	0	0	0	0
	無回答	0	3	2	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

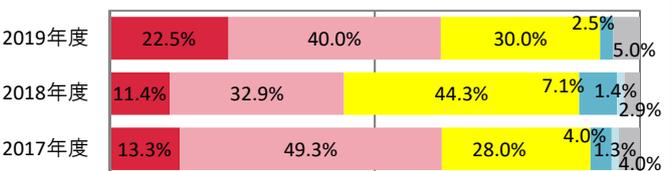


◇学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？（2017年度からの調査項目）

2019年度	通信全体	児童	食物	生芸
強く思う	9	7	2	0
思う	16	7	6	3
どちらともいえない	12	6	6	0
思わない	1	1	0	0
全く思わない	0	0	0	0
無回答	2	2	0	0



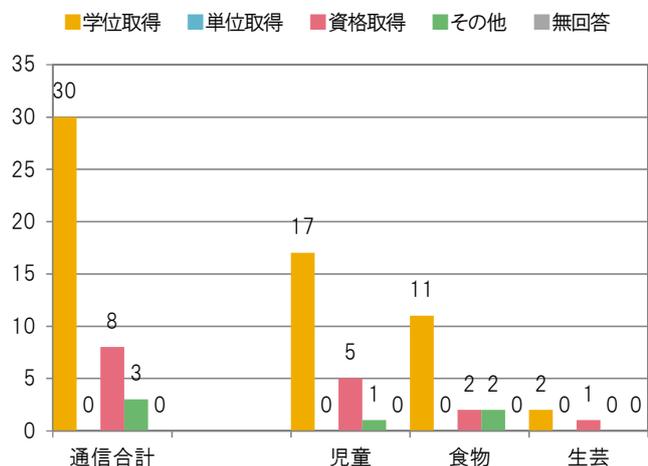
	2019年度	2018年度	2017年度
強く思う	9	8	10
思う	16	23	37
どちらともいえない	12	31	21
思わない	1	5	3
全く思わない	0	1	1
無回答	2	2	3



●本学入学の主たる目的（該当する項目1つ選択）

2019年度	通信全体	児童	食物	生芸
学位取得	30	17	11	2
単位取得	0	0	0	0
資格取得	8	5	2	1
その他	3	1	2	0
無回答	0	0	0	0

※複数回答者 名(赤字)



## 2. 家政学部 通信教育課程 児童学科

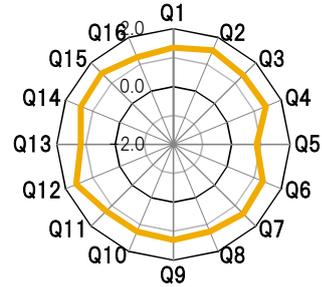
(回収率: 43.3%)

### <身についたと思いますか>

<b>◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)</b>	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
<b>◆ 家政学部通信教育課程の学位授与方針(DP)</b>	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
<b>◆ 通信教育課程児童学科の学位授与方針(DP)</b>	
Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。
Q9	子どもに関する諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。
Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。
Q11	子どもや社会に関する諸問題に関してどのような解決ができるか自ら考察することができる。
Q12	主体性を持って更に学びを深めていくことができる。
Q13	実際に子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。
Q14	自ら必要な学びを積み重ね、内省し、次の行動に生かすことができる。
Q15	他者の意見に耳を傾け協働することができる。
Q16	さまざまな形態の学習を通して得た情報を生かし、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。

### 2019年度通信教育課程児童学科平均

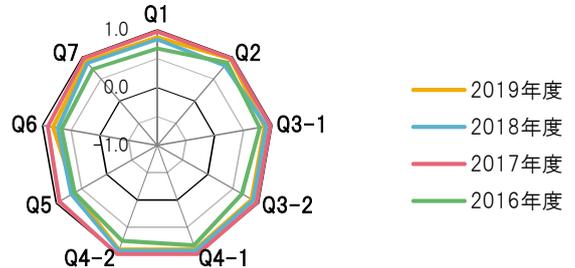
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



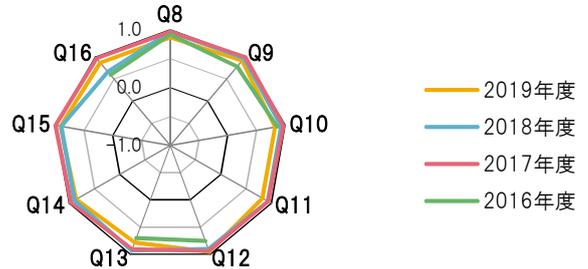
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部通信教育課程DP(5~7)

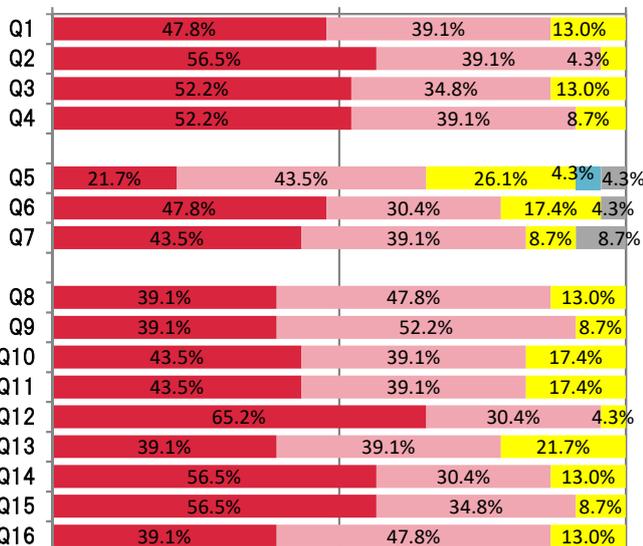


### 通信教育課程児童学科DP(8~16)



	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
強く思う	11	13	12	12	5	11	10	9	9	10	10	15	9	13	13	9
思う	9	9	8	9	10	7	9	11	12	9	9	7	9	7	8	11
どちらともいえない	3	1	3	2	6	4	2	3	2	4	4	1	5	3	2	3
思わない	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない  
■ 思わない ■ 無回答

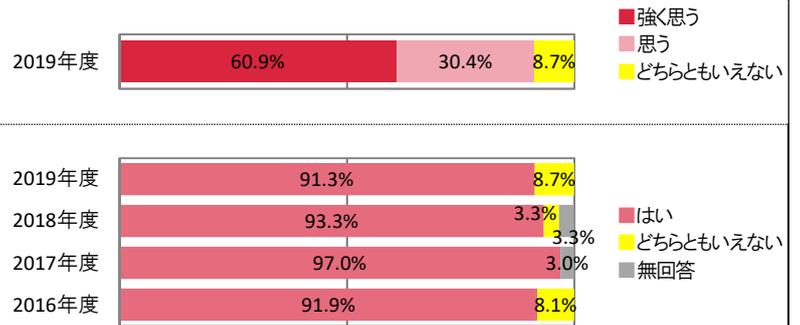


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。	Q8	心理・教育・健康・文化・社会の5領域からなる児童学の幅広い知識を持ち、子どもを理解することができる。
Q9	子どもに関する諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。	Q9	子どもに関する諸問題に対し、専門的知識を持って課題解決に取り組むことができる。
Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。	Q10	多角的な視野から子どもに関する知識を持ち、的確な子ども観を形成できる。
Q11	子どもや社会に関する諸問題に関してどのような解決ができるか自ら考察することができる。	Q11	子どもや社会に関する諸問題に関してどのような解決ができるか自ら考察することができる。
Q12	自分の学習計画を主体的に立てることができる。	Q12	主体性を持って更に学びを深めていくことができる。
Q13	テキストだけに偏らず、できるだけ実際に子どもを観察し、子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。	Q13	実際に子どもから学ぶ姿勢を持つことができる。
Q14	自ら必要な学びを積み重ね、内省し、次の行動に生かすことができる。	Q14	自ら必要な学びを積み重ね、内省し、次の行動に生かすことができる。
Q15	他者の意見に耳を傾け協働することができる。	Q15	他者の意見に耳を傾け協働することができる。
Q16	さまざまな形態の学習を通して得た情報を生かし、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。	Q16	さまざまな形態の学習を通して得た情報を生かし、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。

## ◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

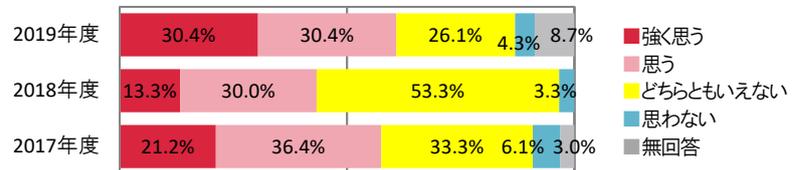
通信児童	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	
はい	強く思う	14	18	25	34
	思う	7	10	7	
どちらともいえない	どちらともいえない	2	1	0	3
いいえ	思わない	0	0	0	0
	全く思わない	0	0	0	
無回答	無回答	0	1	1	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



## ◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

通信児童	2019年度	2018年度	2017年度
強く思う	7	4	7
思う	7	9	12
どちらともいえない	6	16	11
思わない	1	1	2
全く思わない	0	0	0
無回答	2	0	1



### 3. 家政学部 通信教育課程 食物学科

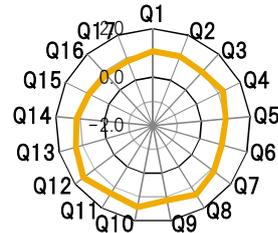
(回収率: 58.3%)

#### <身についたと思いますか>

<b>◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)</b>	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
<b>◆ 家政学部通信教育課程の学位授与方針(DP)</b>	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
<b>◆ 通信教育課程食物学科の学位授与方針(DP)</b>	
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題をとらえ、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11	食生活に関する様々な情報に対して、正しい判断ができる。
Q12	専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q13	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。
Q14	様々な考えの人と協働し、食生活の改善に取り組める。
Q15	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。
Q16	論理的に記述し、的確に表現することができる。
Q17	自分の考えを分かりやすく発表することができる。

#### 2019年度通信教育課程食物学科平均

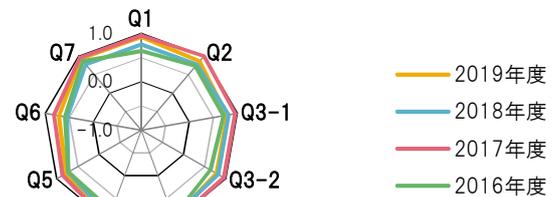
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



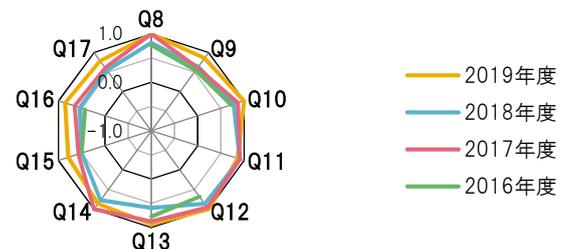
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部通信教育課程DP(5~7)

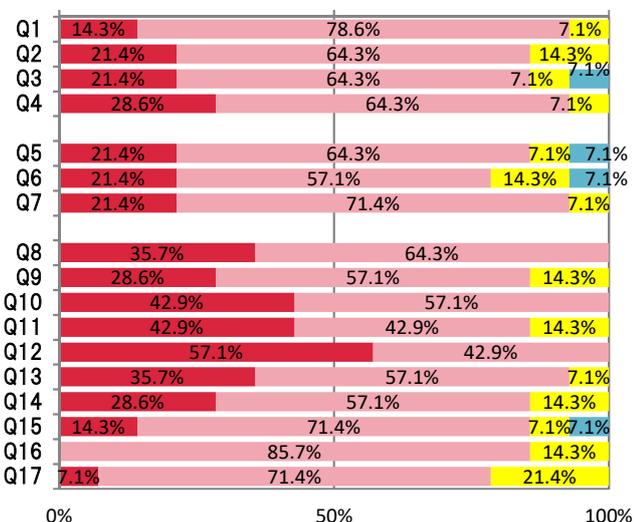


#### 通信教育課程食物学科DP(8~14)



2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17
強く思う	2	3	3	4	3	3	3	5	4	6	6	8	5	4	2	0	1
思う	11	9	9	9	9	8	10	9	8	8	6	6	8	8	10	12	10
どちらともいえない	1	2	1	1	1	2	1	0	2	0	2	0	1	2	1	2	3
思わない	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない

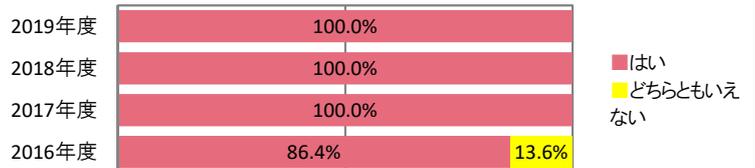


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活にかかわる諸科学を広く学び、食についての正しい科学的知識を修得し、それらを問題解決に応用することができる。	Q8	食品、栄養、調理を中心とした食と生活に関わる諸科学を広く学び、それらを問題解決に応用することができる。
Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。	Q9	多面的な視点から食物を総合的に理解するスペシャリストとして必要な知識・能力を有する。
Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。	Q10	生活や社会といった観点から、食に関する様々な問題を捉え、正しい科学的知識に基づき、論理的に洞察することができる。
Q11		Q11	食生活に関する様々な情報に対して、正しい判断ができる。
Q12	専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。	Q12	専門分野の知識を生活および社会において人々の健全な食生活の推進と健康の維持増進のために生かして社会に貢献したいという意欲を有する。
Q13	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。	Q13	食物の生活や社会に及ぼす影響や効果を説明でき、食に関する様々な問題の解決に積極的な姿勢を有する。
Q14		Q14	様々な考えの人と協働し、食生活の改善に取り組める。
Q15	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。	Q15	食品、調理、栄養、医学に関する諸科学、技術及び情報を利用して、社会の要求を解決するために創造し、表現することができる。
Q16	論理的に記述し、的確に表現することができる。	Q16	論理的に記述し、的確に表現することができる。
Q17		Q17	自分の考えを分かりやすく発表することができる。

## ◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？

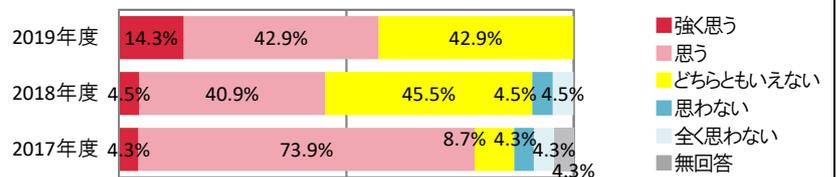
通信食物	2019年度	2018	2017	2016
はい	強く思う	11	12	18
	思う	3	10	5
どちらともいえない	どちらともいえない	0	0	0
	思わない	0	0	0
いいえ	全く思わない	0	0	0
	無回答	0	0	0

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢



## ◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？

通信食物	2019年度	2018年度	2017年度
強く思う	2	1	1
思う	6	9	17
どちらともいえない	6	10	2
思わない	0	1	1
全く思わない	0	1	1
無回答	0	0	1



4. 家政学部 通信教育課程 生活芸術学科

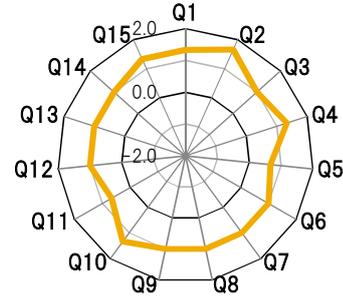
(回収率: 27.3%)

<身についたと思いますか>

<b>◆ 日本女子大学の学位授与方針(DP)</b>	
Q1	建学の精神を理解し、ひとりの人間として、女性として、国際社会の一員として、自立することができる。
Q2	強い信念を持ち自らの人生を切り拓いていくことができる。
Q3	自ら新たな課題を発見し、専門的知識と教養教育により培われた知性と感性によって課題の解決に努めることができる。
Q4	他者に対する共感の気持ちを持ち、まわりの人々と円滑なコミュニケーションをはかって、共同でよりよい社会を築くことができる。
<b>◆ 家政学部通信教育課程の学位授与方針(DP)</b>	
Q5	人間生活を科学的かつ実践的に考察することができる。
Q6	生活そのものが持つ総合性を理解し、専門的知識を持って社会に貢献することができる。
Q7	現実の生活を客観的に把握し、自ら問題を発見し、様々な人と協働して解決していくことができる。
<b>◆ 通信教育課程生活芸術学科の学位授与方針(DP)</b>	
Q8	科学的・文化的・芸術的な広い側面から生活の質の向上に役立つ、被服学と住居学の基礎並びに関連諸分野の知識を習得している。
Q9	衣生活や住生活の課題に対して、実践可能な解決策が構想できる。
Q10	文化的、芸術的視点から独自の感性や美意識を深められる。
Q11	生活の変化や多様化を敏感に捉えて、快適な生活環境の方向性を判断できる。
Q12	衣生活・住生活の質の向上に関心を持ち、社会における自らの役割と責任を自覚できる。
Q13	衣生活や住生活環境をライフスタイル、安全性、快適性などから多角的に捉えて、様々な人々とのコミュニケーションや協働が意欲的に行える。
Q14	快適な生活や環境の実現に向けて、具体的な方法や工夫を反映できる。
Q15	提案や成果物を他者にわかりやすく表現し説明できる。

2019年度通信教育課程生活芸術学科平均

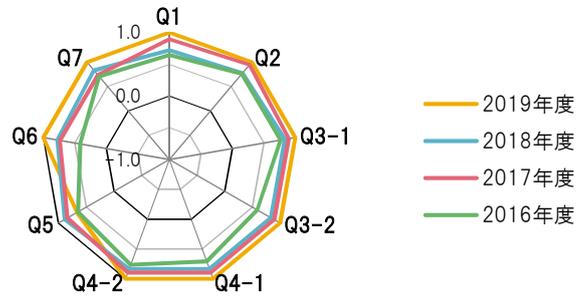
※「強く思う」を2点、「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」を-1点、「全く思わない」を-2点とした平均値（「無回答」は集計から除外）



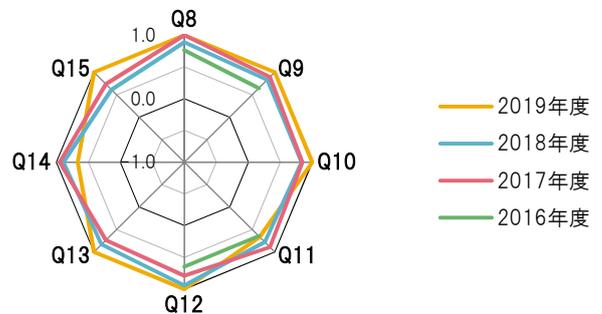
※「強く思う」「思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「思わない」「全く思わない」を-1点とした平均値（「無回答」は集計から除外）

※2016年度までは、「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3選択肢

日本女子大学DP(1~4)・家政学部通信教育課程DP(5~7)



通信教育課程生活芸術学科DP(8~15)



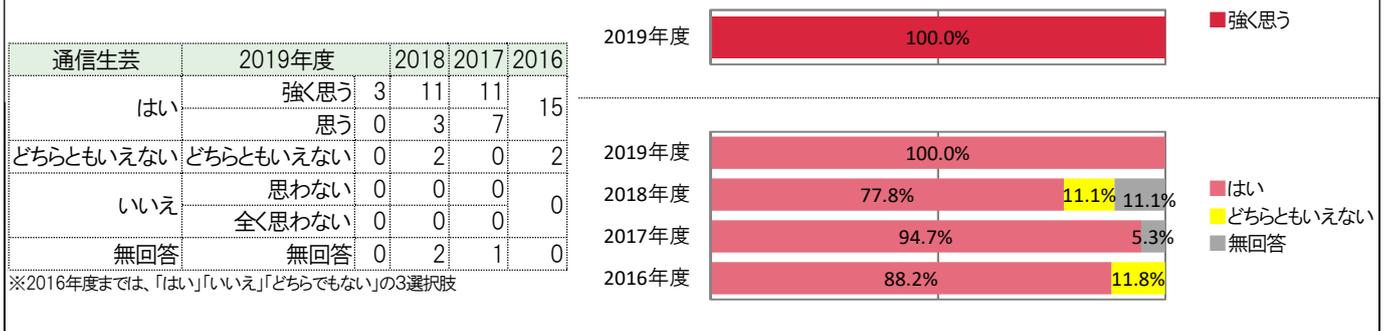
2019年度	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
強く思う	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
思う	2	1	3	2	2	3	3	3	3	2	2	3	3	1	2
どちらともいえない	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

■ 強く思う ■ 思う ■ どちらともいえない  
■ 思わない ■ 全く思わない ■ 無回答

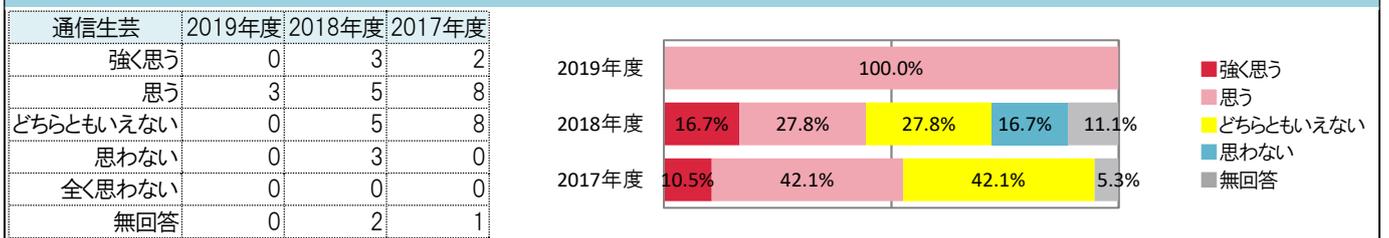


グラフ	2016年度まで	Q	2017年度より
Q8	被服学と住居学に関する基礎ならびに関連分野の広い知識を科学的・文化的・芸術的な側面から修得する。	Q8	科学的・文化的・芸術的な広い側面から生活の質の向上に役立つ、被服学と住居学の基礎並びに関連諸分野の知識を習得している。
Q9	広い視野から衣生活および住生活を含む生活環境の問題解決ができる。	Q9	衣生活や住生活の課題に対して、実践可能な解決策が構想できる。
Q10		Q10	文化的、芸術的視点から独自の感性や美意識を深められる。
Q11	いろいろな状況に応じて、より快適な生活を向上させるための手段や工夫を考え出すことができる。	Q11	生活の変化や多様化を敏感に捉えて、快適な生活環境の方向性を判断できる。
Q12	社会における自らの役割と責任を自覚できる。	Q12	衣生活・住生活の質の向上に関心を持ち、社会における自らの役割と責任を自覚できる。
Q13		Q13	衣生活や住生活環境をライフスタイル、安全性、快適性などから多角的に捉えて、様々な人々とのコミュニケーションや協働が意欲的に行える。
Q14	被服学と住居学を学ぶことにより、快適な暮らしと環境を考え、実際の生活に反映することができる。	Q14	快適な生活や環境の実現に向けて、具体的な方法や工夫を反映できる。
Q15		Q15	提案や成果物を他者にわかりやすく表現し説明できる。

## ◇ 日本女子大学で学んで良かったと思いますか？



## ◇ 学生生活に関する大学の支援体制は、あなたにとって適切だったと思いますか？



以上&lt;家政学部(通信教育課程)&gt;